



人口の増加がもたらす街の活気 都市中心部の人口空洞化と人口増から

金融研究部門 主任研究員 竹内 一雅
take@nli-research.co.jp

現在、東京で最も人口増加率の高い市区はどこかご存知でしょうか。それは、東京駅のすぐ東側、日本橋や銀座、築地中央卸売市場、もんじゃ焼きで有名な月島などが立地する中央区です。2000 年以降、東京都区部の人口増加率では圧倒的な 1 位。最近では人口増加数もベスト 5 に入っています。

かつて、中央区では人口減少の深刻化により、人口の空洞化やコミュニティの危機が叫ばれました。1960 年代から 70 年代には 10 年間の人口減少率が約 25%と、10 年ごとに人口の 1 / 4 が減少していたのです。それが 1997 年を底に人口増加に転じました。2012 年までの 15 年間に人口は 1.7 倍に急増し、高度成長期の 1960 年代末の人口規模を回復しました。

1990 年代半ばに銀座以外の中央区内を、特に土曜日や日曜日に歩くと、その人通りの少なさに驚いたものです。それが、いまはマンションが立つ通り沿いにはこどもの声が響き、公園やスーパーマーケット、レストランなどでは若いカップルや幼児を連れた親子連れを多く見るようになりました。特に、中央区晴海から橋を渡った先にある、ららぽーと豊洲（江東区）ではこども連れの多さに驚かされます。多くのこどもたちが遊び、元気に声をあげる姿は、たまたま通りかかったわたしにも元気を与えてくれます。20 代後半から 40 代の家族世帯の人口増加により、中央区の 0 歳から 4 歳のこどもの数は 1997 年の 2 千人強から 6 千人へと増加し、高齢化率は 16.4%と都区部で最低となりました。

日本の人口は 2005 年頃から一進一退を続けてきましたが、2011 年以降、毎年の減少が 10 万人を上回り、本格的な減少期に入ったと思われます。ほとんどの道府県で人口の減少が続く、過疎地域面積は全国土の 57%、過疎地域の市町村数は全体の 45%に及んでいます。震災前の推計ですが、2050 年までに日本の人口は約 25%減少し、人口が半分以下になる地点は現在の居住地域の 66%に達する一方、増加地点は 2%に満たず、増加は東京圏などに集中すると予測されています。

こどもの存在は周囲に明るさを与えてくれます。若者の存在は刺激を与えてくれます。人口の増加は街に活気とにぎわいを、経済には成長と競争力を与えてくれます。都市の中心部ではそのような街が再生され、育ちはじめています。今後、都市中心部を核にさらなる出生率の拡大と人口増加の動きを加速し、それを全国に広げる仕組みの構築に期待したいと思いますⁱ。

日本の多くの場所が再び、こどもであふれ、若者が夢を語り、人々が生き生きと遊び、働き、高齢者が幸せにすごし、他のアジア諸国に負けない活気にあふれている、そんな姿を想像してみてください。人口の増加はそうしたにぎわいと活気を生み出すのではないのでしょうか。わたしは、そんな日本に住みたいと願っているのですがⁱⁱ。みなさんはどうですか？



竹内 一雅

たけうち かずまさ
ニッセイ基礎研究所
金融研究部門 主任研究員

●
北海道大学大学院環境科学研究科修士課程修了。90 年(株)野村総合研究所入社。93 年ニッセイ基礎研究所へ。99 年より現職。著書に「最新・事業用ビルのコスト管理実務資料&コスト算定シミュレーション」他。

ⁱ 今年、団塊ジュニア世代のピークが 40 歳となります。女性の年齢別出生率（千人当り）は、35 歳～39 歳では 47.2 ですが、40 歳～44 歳では 8.3 まで大幅に低下します。少子化対策は一年遅れると、人口ピラミッドの歪みからその効果は大きく低下することが予想されます。なお女性の年齢別出生率は、25 歳～29 歳では 87.4、30 歳～34 歳では 96.3 です。

ⁱⁱ [竹内一雅『人口減少問題に対する「日本の奇跡」への願い』](#)ニッセイ基礎研究所、研究員の眼、2009 年 11 月 25 日